

琉球新報

刊 日

十一月十五日 かのとせり
 昭和二十二年十二月十九日
 本報創刊二十九年
 本報社址 東京市千代田区丸の内一丁目一十六番地
 電話 三三三三
 電報掛 九〇九
 印刷 東京市千代田区丸の内一丁目一十六番地
 印刷所 琉球新報社
 發行所 琉球新報社

琉球新報

八重山の開發問題

本縣行政區劃自三拾六方里中八重山郡は其の約三分の一を占む、之れが開發に就ては縣經濟上ののみならず、國家公益の爲め秒少なからず關係を有せり、中には古賀氏の經營に屬する尖閣列島の如きあり、近附たる島嶼を以てして年々優に拾數萬圓の利益を供し、後益々發展の見込あり、經營の當人古賀氏は爲めに其の功により藍綬褒章を賜へり、其他全部一巡したるもの皆悉く開拓すべき利益の豐なるを言はざるものなし、一般の輿論斯く全部に注て未嘗手に至らざるもの、蓋し其の地方特有の病氣あり、憂患を爲すと他は其の地位の餘りに僻在せるが故ならずと云ふことなし

然るが故に疑きに即時縣會に於ては地方病撲滅の目的を有する提案の建議あり、縣當局は之を容れて四十三年度豫算中其の計劃を示せり、斯くて縣會は更にヨリ善き方法に修正して通過せしめたり、先づ以て病患撲滅の方法は立てられたりと見て可ならむ、然り而て第二の源因たる地方僻在に就ては縣會の最終案日を以て全部選出議員なる大衆民により提議されたる建議案により漸く之れが缺陷 補はれんとせり、即ち八重山郡内に本縣農事試驗場分場を設けて農事の普及を企圖せんとすることなり

吾人は斯る一就は熱心なる賛成者たること、至時に移不則農事試驗場分場に就ても又熱心なる賛成者の一人なりとす、而して其の理由とする所は此の分場の設置によりて、本縣管内總面積の約三分の一に値する地方開拓の動機を遂め、更に全地方より収益すべく條件の多くを發見するを期待するに耐へたるを以てなりとす

尤も八重山郡内には單に學圃に適宜するのみならず、山林も大面積を有せり、而かも大部分は官有に属せる外地勢は拾七群嶋に分れたる等不利の條件なきに非ざるも、是等の不利なる條件は各地方に到る處にあり、全部に縣費の幾分を注入するを決定する理由の一となること能はざるのみならず、既に上説せる如く、全部が農業家團體の地點たる萬人俱樂部の中にあるに拘はらず、未だ一回も經驗せられたることなき遺棄せられたる沃野たるに於ては縣は之れに對して豫備的事業を試み農業家をして向ふ所を知らしむるの必要最も迫切なりと云はざるべからず、是れ歐米各國新開の地より先づ採用せられたる當世の最も賢

く、而かも經濟的なる事業たるに於て、移して以て之を萬代不毛の全部内に施すは結構のとらざるや

以上は八重山利益開拓の方面農事に關し立言したるのみ此の他にも尙ほ海産等有利なるは論を披たす、若し之と縣一般の公益上より云ふも、本島地方の如き充分開拓せられたる地方にのみ農事の試験を施さんより八重山の如き餘裕ある地方に大計劃の事業を試み、牧畜其の他のことに亘りて所有研究を積み、更に一轉しては之を宮古郡の如き八重山と全様の有様にある地方利益の開拓に資することを得ば一舉にして兩得たるのみならず本島地方又た其の研究の恵に浴し彼の熱帶動植物の如き珍重利源を得るに至るを疑はず、之れ懸ては一舉三得の妙あり縣全般的利益を進むること多大なるものなくばあらざるべし

要するに八重山問題は縣經濟上より云ふ時は本縣下三分の一に値する利益圈の問題にして又追利を有利たらしむる點より云ふ時は國家の利益を進る所以ならざるべからず況んや其の低廉なる地價と開放せられたる天然の道利と有用して農事の試験をなして新進事業を進むるは縣下全般的利益問題たらざるべからず、人によりては本縣農事試驗場從來の經過餘りに面白からざるを理由として之を否定せんとするものあるやに聞くと雖も、之れ恐らくは僻論なるべし其の故如何となれば本縣試驗場の不成績は則ち八重山分場の益々必要缺くべからざるを証することゝなるべければ也、吾人は本事業の爲め縣費の幾分を割き相當勢力を與ふるを容む所以を見出すこと能はざる也、

1909.12.27
 (1) R

琉球新報